

海外留学・研修等実績報告レポート
(タイ・カセサート大学短期研修)

学籍番号：2130260

氏名：村上桜香

2024年2月27日～3月9日までの約2週間、タイのカセサート大学での短期研修で得た経験についてまとめ、研修実績報告レポートとする。

平日は午前中から15時頃までプログラムがあり、農産学部での藍染め体験やムエタイ体験などを行った。特にタイ語の授業では、日本で過ごしていてもなかなか耳にすることのないタイ語を実践的に学習する貴重な機会となった。具体的な内容としては、カセサート大学の学生にも教わりながら、自己紹介や、買い物などの日常生活で使うフレーズを学んだ。また、その後のプログラムでもタイ語で自己紹介をしたり、買い物に行った際にタイ語で値段を尋ねたりと、学習したことをすぐに活かすことができた。これまでは外国語として英語や、第二外国語として履修していた韓国語を勉強していたが、今回の研修を通して様々な国の言語を学ぶことの楽しさに気が付くことができた。今後は、タイ語も少しずつ勉強していきたいと考えている。

【タイ語の授業の様子】



【藍染め体験(左)とムエタイ体験(右)】



授業後や週末はプログラムで交流したカセサート大学の学生と夕食に出かけたり、個人で観光地等を訪れたりすることができ、タイの文化や歴史に触れる良い機会となった。また、タイではいたるところに屋台やマーケットがあり、カセサート大学内にも大規模な学食があるため、手軽にタイ料理を味わうことができた。そこでも、タイ語の授業で学習したフレーズを使って料理の注文をすることができ、良い経験になった。

また3月3日には、タイの学生も含め6人でアユタヤ遺跡を訪れた。アユタヤは、14世紀中頃から約400年以上にわたって繁栄したタイの王朝であり、寺院や仏像などの遺跡は世界遺産に登録されている。現地までは、電車で1時間ほどかかり、タイのローカルな雰囲気を楽しむことができた。アユタヤには大きく分けて7つの寺院があり、私たちはそのうちの4つを訪れた。寺院や仏像の規模が壮大で、日本の遺跡とは異なる色彩感覚や建造物の造りに感動した。現地では、トゥクトゥクを利用して移動、象に乗る体験もできた。カセサート大学の学生が案内してくれたことで、日本人だけで旅行として訪れるのとは違い、アユタヤの歴史や寺院について説明を聞くことができたため、タイの歴史をより深く理解することができたように思う。タイには、アユタヤ遺跡だけではなく、街に多くの寺院があり、仏教がいかに大切にされているかを実感した経験となった。

【アユタヤ遺跡】



以上のように、本研修の様々な活動を通してタイの生活や文化、歴史を広く知るきっかけとなった。プログラム内では学生と交流する機会も多くあった。英語やタイ語でのコミュニケーションでは時に表現したいことが伝わらなかったり、相手の言うことが理解できなかったりして、苦労した場面も多々あったが、約2週間このような環境で過ごしたことで学習の意欲向上につながったと考える。また、プログラム外のフリータイムでも、大学内を散策したり、観光名所を訪れたりして日本との違いや、それぞれの国の良さ、課題を見つめなおすこともできた。これらの経験を今後の学生生活にも活かし、積極的に海外に目を向けていきたい。